
卓上型自動平衡記録計

U-228₅₀₀仕様

取扱説明書

ご使用前にこの説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

はじめに

このたびは、当社製品をご選定いただき、誠にありがとうございます。

この製品を事故なく安全に、末長くご活用いただくため、取扱説明書を熟読し、十分に内容を理解してご使用ください。

安全上の注意

人身事故や故障を未然に防止するためのものです。

このページに示した注意事項は、いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので必ず守ってください。

注意事項に反したご使用により生じた損害には、当社はその責任を負いかねます。

安全関係の記号

本器の取扱説明書で使用されている安全上の記号の一般的定義を示します。

図記号	タイトル	意味
	一般	特定しない一般的な注意、警告、危険の通告
	感電注意	特定の条件において感電の可能性を注意する通告
	発火注意	特定の条件において発火の可能性を注意する通告
	破裂注意	特定の条件において破裂の可能性を注意する通告
	指挟まれ注意	指が挟まれることによる傷害の可能性を注意する通告



注意

傷害を負う危険性、および物的損害の発生が想定されます。



本器を必ず大地に接地してください。

感電を防止します。
ノイズを防止します。



本器内に金属類や異物を落とさないこと。

火災や故障の原因になります。



指定以外のヒューズは使用しないこと。

火災や故障の原因になります。



分解したり破損のまま使用したり、
通電したまま
放置しない。

感電や故障の原因になります。



適合しない電源電圧を使用しないこと。

火災や故障の原因になります。



通電したまま防塵カバーを被せないこと。

本器が高温になり、変形
したり、火災の原因になります。



電源は「たこ足配線」しないこと。

火災の原因になります。



ペン走行場所に不用意に手を入れないこと。

ケガや故障の原因になります。



薬品や雨、ガスにさらされる場所での使用や
保管は避けること。



漏電や引火により、火災
や感電、故障の原因に
なります。



入力端子の金属部に手を触れない
こと。

感電の原因になります。



目 次

1.	概 説	1
2.	特 長	1
3.	仕 様	3
4.	使用方法	6
4.1	各部の名称と機能	6
4.2	記録（測定）準備	13
4.3	記録紙の装てん	14
4.4	記録ペンの装着	16
5.	使用上の注意事項	17
5.1	記録ペン	17
5.2	グラウンド端子	17
5.3	環 境	17
5.4	記録紙送り	17
5.5	最大許容入力電圧	17
5.6	コモン・モード電圧	18
5.7	入力信号線の接続	18
5.8	信号源抵抗の影響	19
6.	保 守	20
6.1	フルスパン電圧調整器“CAL.”の較正	20
6.2	制動調整器“DAMP.”の調整	20
6.3	マーカ振幅調整器“MARK.”の調整	21
6.4	注 油	21

1. 概 説

U-228卓上型自動平衡記録計は、サーボ機構による平衡測定法、いわゆるゼロ位法を自動的に行い、ペンによる記録機構を作動させ、一定速度で移動する記録紙上に、入力信号に応じた波形を連続記録する装置です。

この記録計は、当社の長年にわたって蓄積した製造技術を生かし、仕様面の充実と性能および操作性の向上をはかり、小型、軽量化とあわせて、デザインの面にも重点をおいて開発されました。したがって、この記録計は数多くの特長を備えています。

2. 特 長

- (1) ロール記録紙および折りたたみ記録紙のいずれでも使用できるスプロケット付記録紙送りドラムを採用しています。
- (2) 小型、軽量化とあわせて、片手で運搬ができる構造のため、必要な測定場所への移動が容易に行えます。
- (3) 記録紙台板上で記録状態の観察や、データの記入などが容易に行えます。
注) 記録紙台板はキズがつきやすいため、台板上でカッターナイフなどの使用はしないでください。
- (4) 記録紙送りにパルスモータを採用したことにより、24段23速の豊富な送り速度が自由に選択できます。なお、基準発振器に水晶発振子を用いておりますので、安定な送り速度が得られます。
また外部信号源の周波数に比例した記録紙送りができるとともに、外部からの駆動停止も可能です。
- (5) 記録紙の位置修正を容易にする記録紙早送りスイッチを備えています。
- (6) ロール記録紙を使用の場合、記録紙巻き戻しつまみによって、任意の位置まで巻き戻しが容易に行えます。
- (7) 記録紙巻き取り機構の内蔵を可能としたため、最小のスペースで使用することができます。(オプション)
- (8) 記録紙終端警報機構を備えており、ブザーおよびランプの点滅により記録紙の終端を報知します。
- (9) 記録ペンにはカートリッジ・タイプのファイバチップ・ペンを採用していますので、記録中にインキ切れの心配がなく保守が容易です。
- (10) 1kHz変調型サーボ増幅器と直流サーボ方式の採用によって、すぐれた応答性、耐ノイズ特性、温度特性をもっています。
- (11) スイッチで記録計の極性切り換えができます。
- (12) 較正電源を備えており、フルスパン電圧精度の確認、および較正が簡単に行えます。

- (13) 重畳式イベント・マーカが標準装備されていますので、記録紙上に任意にマークを入れることができ、また各ペンの時間差（記録紙上の）も知ることができます。
- (14) フィルム・ポテンショメータの採用とDCサーボモータを保護するトルク減少回路によって、信頼性が一段と向上しました。

3. 仕様

型名	U-228 (500仕様)	
チャンネル数 ※1	1～2	
記録方式	自動平衡実線記録方式	
有効記録幅	250mm	
ペン走行時間 ※2	1/3 sec以下	
基準点	記録紙右端	
ゼロ点調整範囲	基準点より+100%	
ゼロ点チェック・スイッチ	付属する	
測定範囲	1, 2, 5, 10, 20, 50, 100, 200, 500mV 1, 2, 5, 10, 20, 50, 100, 200 V (17レンジ)	
測定範囲微調整器 (レンジ・バーニア) ※3	付属する	
極性切り換えスイッチ	付属する	
入力方式	フローティング	
入力抵抗	1MΩ (一定)	
許容信号源抵抗	10kΩ以下	
確度 ※4	±0.3% (23℃) 温度係数±0.025%/℃ MAX.	
レンジ間誤差	2mV～50mVレンジ ±0.15% (23℃) 温度係数±0.005%/℃ MAX. 100mV～200Vレンジ ±0.2% (23℃) 温度係数±0.0075%/℃ MAX.	
不感帯	±0.1% /FS	
直線性	±0.25% /FS	
耐ノイズ特性 ※5	CMRR	DC 160dB以上
		AC (50/60Hz) 160dB以上
	NMR	AC (50/60Hz) 64dB以上
温度特性 ※6	通電後のゼロ点ドリフト	±0.5% /FS以上 (室温一定)
	安定後のゼロ点ドリフト	±0.15% /FS / 10℃以下
記録紙速度 ※7	(1) 10, 15, 20, 30, 40, 60, mm/h, cm/h, mm/min, cm/min 24段23速 (10mm/min と 60cm/h が重複します。)	

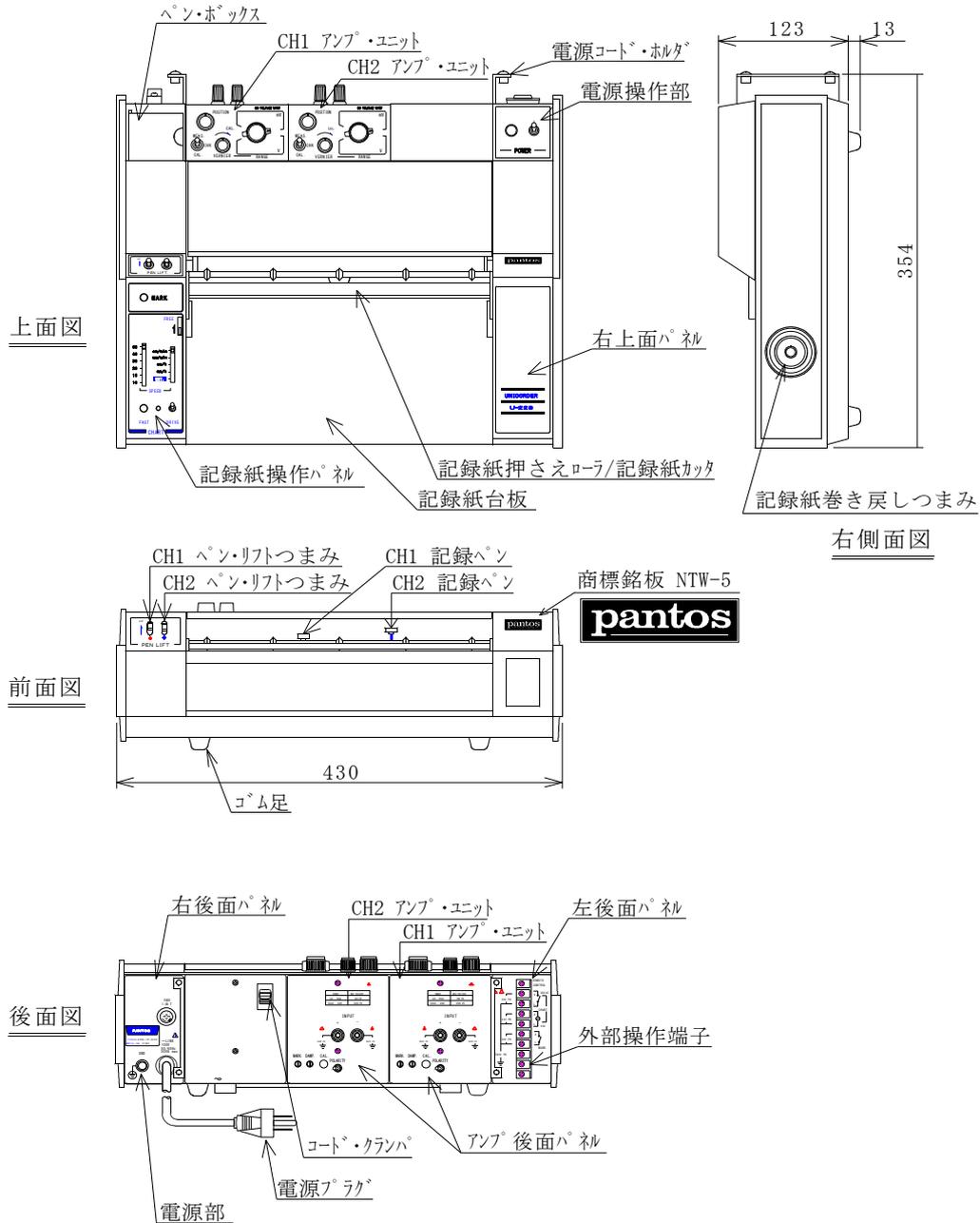
記 録 紙 速 度	※8 (2) 外部信号による記録紙送り ・記録紙速度 1 Hzで1mm/min, 最大600Hz ・入力インピーダンス 4.7kΩ以上 ・外部信号源 電圧 ハイ・レベル +2V~+20V ロー・レベル +0.8V~-20V (TTLレベルで動作可能) 信号波形 パルス, 正弦波, 方形波, 三角波など (パルス幅 50μsec以上)		
記録紙早送りスイッチ	付属する		
記録紙終端警報	記録紙がなくなったときの動作 ・ブザーが鳴る ・ランプが点滅する ・記録紙が停止する ・記録ペンが停止する		
記録紙巻き戻し機構	付属する (ロール記録紙のみ使用可)		
記録紙送りドラム	スプロケット付		
記 録 紙	ロール記録紙 No.2516P50 長さ20m 右基準 折たたみ記録紙 No.2516Z150 長さ20m 右基準		
記 録 ペ ン	カートリッジ式ファイバチップ・ペン(NDA-5※, NDK-18※)		
記 録 イ ン キ 色	チャンネル1-赤, チャンネル2-緑		
ペ ン ・ リ フ ト	各ペン単独手動 (ペン間隔 4mm)		
トルク減少回路 ※9	付属する		
イ ベ ン ト ・ マ ー カ	重畳式 振幅: +3.5±1目盛, 時間: 0.2~0.4sec		
イベントマーカ・スイッチ ※10	付属する		
較 正 電 源	電圧 最高感度レンジ値 (1V MAX.) 確度 ±0.2% (23℃) 温度係数 ±0.007%/℃ MAX.		
使用温・湿度範囲	温度0~45℃, 湿度45~85%		
電 源	AC 100V±10% 50Hz, 60Hz 両用		
消 費 電 力 TYP.	チャンネル数	平 衡 時	最 大
	1	19VA	32VA
	2	21VA	47VA

絶縁抵抗	電源—シャシ (GND)	5 0 MΩ 以上 (DC500Vカギ)
	入力端子—シャシ (GND)	1 0 0 MΩ 以上 (DC500Vカギ)
耐電圧	電源—シャシ (GND)	AC 1 0 0 0 V 1 分間
	入力端子—シャシ (GND)	AC 1 0 0 0 V 1 分間
外形寸法	4 3 0 (W) × 1 2 3 (H) × 3 5 4 (D) mm (突起物の寸法は含みません)	
重量	チャンネル数	湿量
	1	7 kg
	2	8 kg
付属品	記録紙 No. 2 5 1 6 P 5 0	1
	記録ペン チャンネル 1 用 (赤色) NDA-5R	各 1
	記録ペン チャンネル 2 用 (緑色) NDK-18G	各 1
	記録紙ホルダ	左右各 1
	ヒューズ 1 A	1
	ダスト・カバー	1
	電源コード・アダプタ	1
	取扱説明書	1

- ※1 短い記録ペンをチャンネル 1 とし、長い記録ペンをチャンネル 2 とします。
- ※2 入力信号の 9 9 % を走行するのに要する時間。
- ※3 各測定範囲を 2. 5 倍まで拡大することができます。
- ※4 極性切り換えスイッチを “+” に設定し、最高感度レンジで測定した場合の直線性を含む確度。
- ※5 最高感度レンジでの測定における値を示します。
- ※6 最高感度レンジでの測定における値を示します。
安定までの通電時間は 3 0 分程度です。
- ※7 記録紙送りを駆動・停止する遠隔操作が可能です。この場合、外部操作端子の “CH-ART DRIVE” を使用します。(接点またはオープンコレクタ・トランジスタを使用)
- ※8 パネル面の記録紙速度単位切り換えスイッチを “EXT.” の位置にして外部操作端子の “CHART OSC” に外部信号を加えます。
- ※9 たびたび、または長時間にわたり測定範囲を超える電圧が印加された場合、DCサーボモータを保護します。
- ※10 遠隔操作も可能です。この場合、外部操作端子の “MARK.” を使用します。(接点またはオープンコレクタ・トランジスタを使用)

4. 使用方法

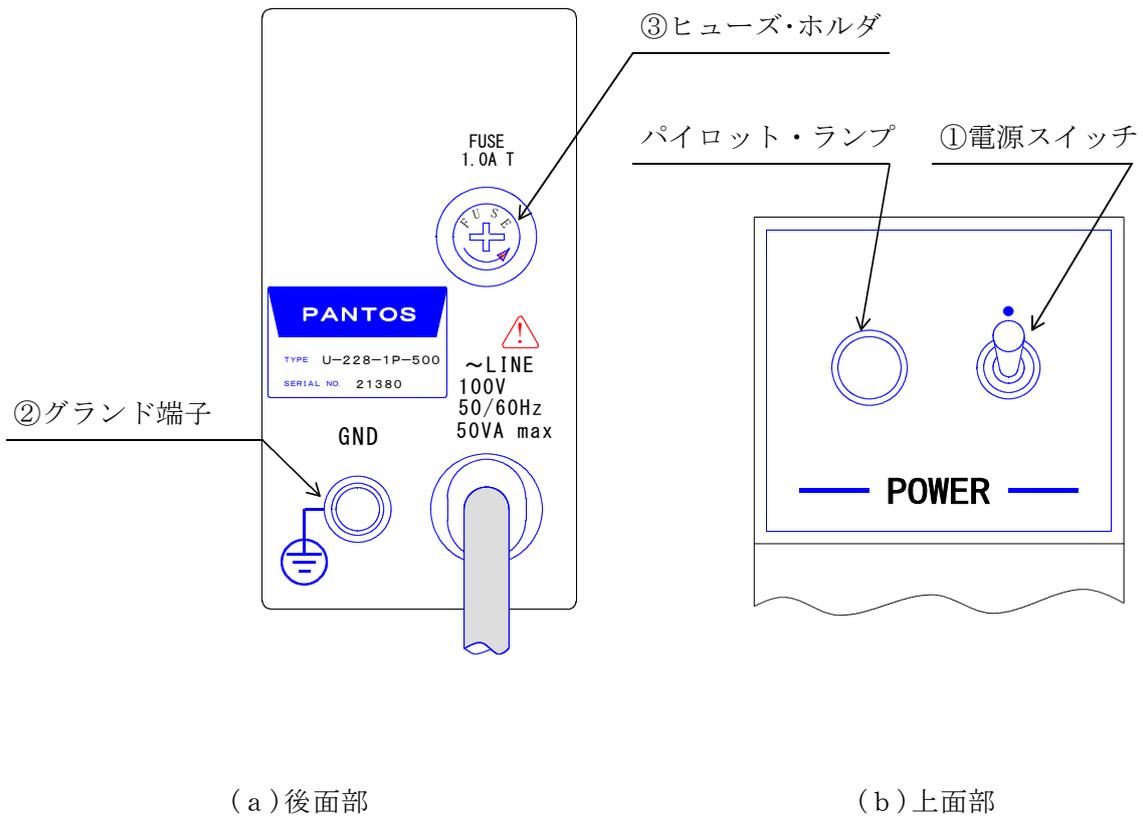
4.1 各部の名称と機能



※ 1チャンネルの場合は2チャンネル側のアンプ・ユニット, 記録ペン
およびペン・リフトつまみが省かれます。

第4.1図 各部の名称

4.1.1 電源部



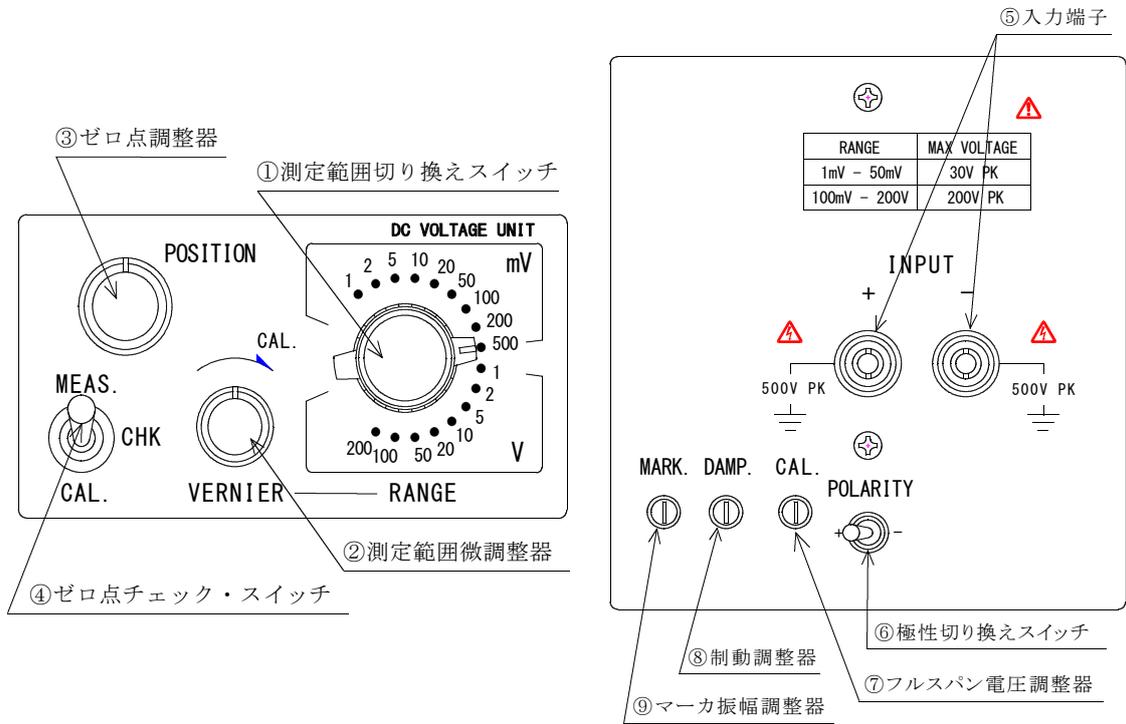
第4.2図 電源部

- | | |
|----------------------|--|
| ① 電源スイッチ
“POWER” | 記録計の全電源の開閉を行うもので、このスイッチを「ON」にするとパイロット・ランプが点灯します。 |
| ② グランド端子
“GND” | 記録計を接地して、記録計のシャシと大地を同電位にするもので、安定した測定が行えるとともに感電などの予防にもなります。必ず接地してご使用ください。 |
| ③ ヒューズ・ホルダ
“FUSE” | AC電源ラインのヒューズが入っています。矢印の方向に回すと外すことができます。必ず指定のヒューズを使用してください。 |

ご注意

- ・ 異なった電源電圧で使用すると火災を招く恐れがあります。必ず適合する電源電圧で使用してください。
- ・ ヒューズを交換するときは、必ず電源プラグを抜いてから行ってください。
- ・ 必ず電源電圧に適合したヒューズを使用してください。

4.1.2 アンプ・ユニット部



(a) 上面部

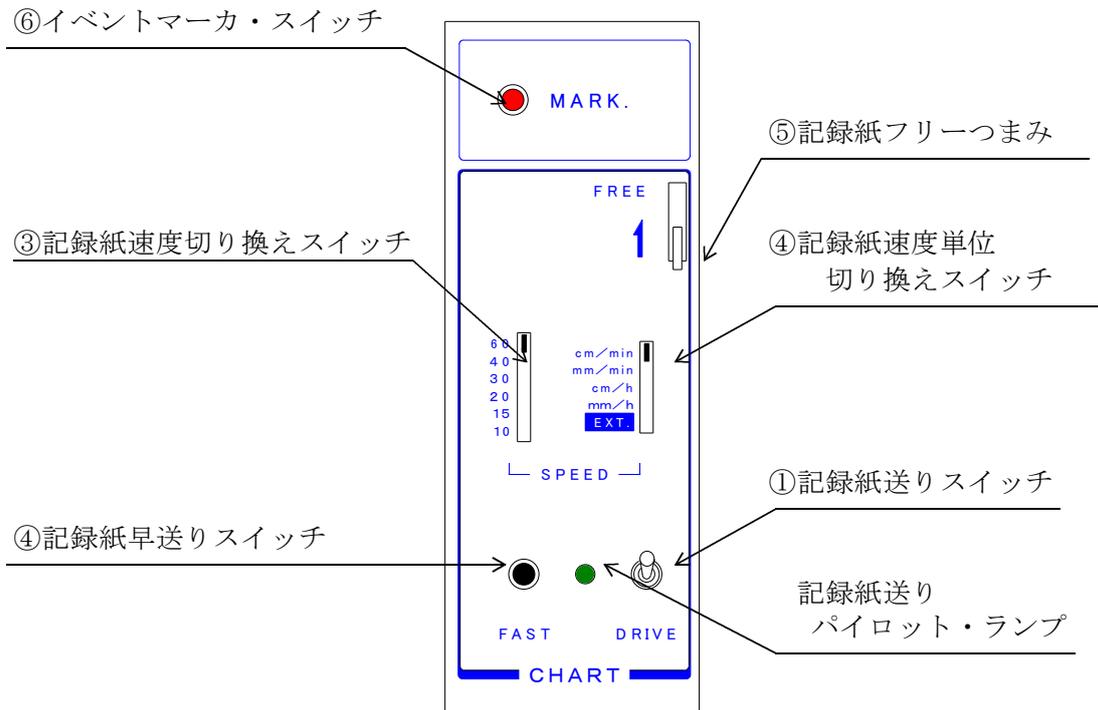
(b) 後面部

第4.3図 アンプ・ユニット部

- ① 測定範囲切り換えスイッチ “RANGE” 入力信号の分圧器で入力電圧の大きさに応じてこのつまみを設定します。
- ② 測定範囲微調整器 “RANGE VERNIER” 測定範囲切り換えスイッチの各測定範囲を2.5倍まで拡大することができ、各レンジ間を任意の測定範囲に調整して入力信号を必要な振幅にして記録できます。
なお、各測定範囲は、このつまみを“CAL.”に回しきったときの値です。
- ③ ゼロ点調整器 “POSITION” 記録ペンのゼロ位置を設定するためのもので、時計方向に回すと記録ペンは右方向に移動します。

- ④ ゼロ点チェック・スイッチ
“MEAS.-CHK-CAL.”
- 入力信号のON-OFFスイッチです。
“CHK”に設定すると入力信号とは無関係に記録ペンのゼロ点を確認できます。
“MEAS.”側にすると入力信号を測定できます。
“CAL.”に設定すると最高感度レンジにおけるフルスパン電圧相当の較正電圧が印加されます。
フルスパン電圧確度の確認、およびフルスパン電圧調整器“CAL.”による記録ペンの指示値の大きさの較正が簡単にできます。
- ⑤ 入力端子
“INPUT”
- 記録しようとする信号の入力端子です。グラウンドに対し高インピーダンス側を“+”端子に、低インピーダンス側を“-”端子に接続してください。
- ⑥ 極性切り換えスイッチ
“POLARITY +, -”
- 記録計の極性を切り換えるスイッチで“+”側にすれば入力端子の“+”側に正の電圧が加わった場合に記録ペンは左方向に移動し、“-”側にすれば右方向に移動します。
- ⑦ フルスパン電圧調整器
“CAL.”
- 入力信号に対する記録ペンの指示値の大きさを較正するものです。高精度に工場で較正して出荷していますので通常は手を触れないでください。
(較正については6.1項参照)
- ⑧ 制動調整器
“DAMP.”
- 記録ペンの制動状態を調整するもので時計方向に回すと制動効果が大きくなります。
(調整については6.2項参照)
- ⑨ マーカ振幅調整器
“MARK.”
- 各記録ペンに重畳させるマーカ記録の振幅を調整するもので、時計方向に回すと振幅が大きくなります。

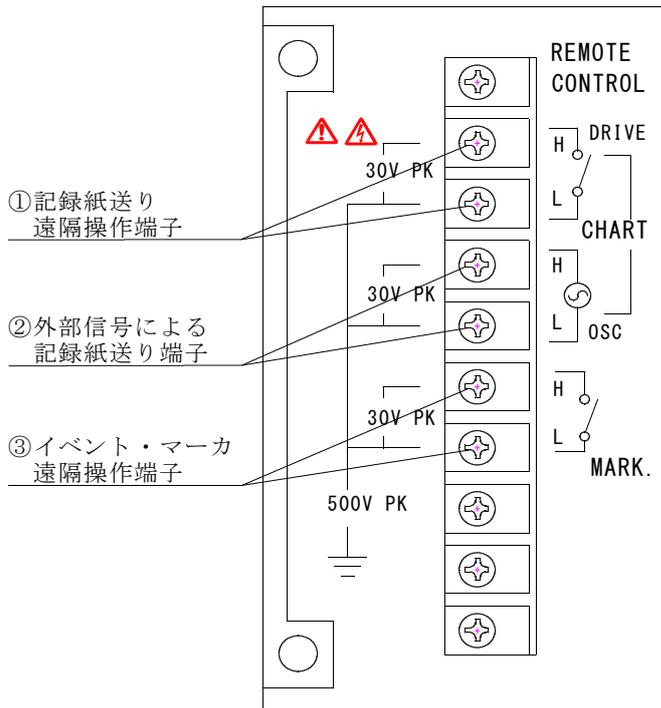
4.1.3 記録紙送り操作部



第4.4図 記録紙送り操作部

- | | |
|------------------------------------|---|
| ① 記録紙送りスイッチ
“CHART DRIVE” | 記録紙の駆動・停止を行うスイッチで「ON」にするとパイロット・ランプが点灯し、記録紙が送り出されます。 |
| ② 記録紙早送りスイッチ
“CHART FAST” | このスイッチを押すと記録紙送りスイッチ、記録紙速度単位切り換えスイッチ、および記録紙速度切り換えスイッチの設定位置に関係なく記録紙は60 cm/minの速度で送り出されます。 |
| ③ 記録紙速度切り換えスイッチ
“CHART SPEED” | 記録紙速度を設定するスイッチで、表示された値が記録紙速度を表します。 |
| ④ 記録紙速度単位切り換えスイッチ
“CHART SPEED” | 記録紙送り速度の単位切り換えスイッチです。 |
| ⑤ 記録紙フリーつまみ
“CHART FREE” | このつまみを“FREE”に設定することにより記録紙の手動送り、および巻き戻しができます。 |
| ⑥ イベントマーカ・スイッチ
“MARK.” | 記録中にこのスイッチを押すと、全部の記録ペンに重畳したマークを入れることができます。 |

4.1.4 外部操作端子部



第4.5図 外部操作端子部

第4.6図 外部操作端子カバーの脱着

- ① 記録紙送り遠隔操作端子 ※ “CHART DRIVE”
- 記録紙送りスイッチ“CHART DRIVE”を「OFF」の状態にして、この“CHART DRIVE”端子を閉回路、または開回路にすることにより、記録紙送りの駆動・停止ができます。
- ② 外部信号による記録紙送り端子 “CHART OSC”
- 記録紙速度単位切り換えスイッチを“EXT.”に設定した後、この“CHART OSC”端子に外部信号源を接続（信号の周波数、電圧範囲は、**3.仕様 記録紙速度**の項目を参照）することにより、外部信号源の周波数に比例した記録紙送りができます。
- ③ イベント・マーカ遠隔操作端子 ※ “MARK.”
- “MARK.”端子を閉回路にすることにより、全部の記録ペンにマークが入ります。

※ アナログ・スイッチまたはオープンコレクタ・トランジスタでスイッチングを行うことも可能です。

なお、“H”端子が“L”端子に比べ高電圧レベル（+）側になっています。

外部接点容量 DC 10V, 1mA以上

（注）各操作端子の“L”端子は、すべて共通ラインになっておりますのでご注意ください。

4.1.5 その他

- ① ペン・リフトつまみ このつまみを上下することにより、記録ペンが昇降します。
- ② ペン・ボックス 取り外した記録ペンや、使用中のペン・キャップなどを収納します。
- ③ 記録紙カッタ 記録紙を切り離すときに用います。切断方法は記録紙カッタの中央部を指で押さえ、他方の手で記録紙を端の方から引き上げるようにして切断します。
- ④ 記録紙巻き戻しつまみ 記録紙フリーつまみを“FREE”に設定し、このつまみを外側に引き出して時計方向に回転させると記録紙を巻き戻すことができます。
折りたたみ記録紙は巻き戻すことはできません。

4.2 記録（測定）準備

使用する前に下記順序に従って、準備確認を行ってください。

(1) 各操作部を次のように設定します。

- ・電源スイッチ …………… 「OFF」に設定
“POWER”
- ・記録紙送りスイッチ …………… 「OFF」に設定
“CHART DRIVE”
- ・記録紙速度切り換えスイッチ …………… 希望の速度に設定
“CHART SPEED”
- ・記録紙速度単位切り換えスイッチ …………… 希望の速度に設定
“CHART SPEED”
- ・ペン・リフトつまみ …………… 「UP」に設定
“PEN LIFT”
- ・ゼロ点チェック・スイッチ …………… 「CHK」に設定
“MEAS.-CHK-CAL.”
- ・測定範囲切り換えスイッチ …………… 希望のレンジに設定
“RANGE”
- ・極性切り換えスイッチ …………… 正の電圧を測定する場合は“+”側に、
“POLARITY +, -” 負の電圧を測定する場合は“-”側に設定

(2) グランド端子“GND”を接地します。

(3) 電源コードを電源に接続します。

(4) 記録紙を装てんします。(4.3項参照)

(5) 記録ペンをペン台車に装着します。(4.4項参照)

(6) アンプ・ユニットの入力端子“INPUT”に入力信号線を接続します。

(7) 電源スイッチ“POWER”を「ON」にします。

(8) ペン・リフトつまみ“PEN LIFT”により記録ペンを記録紙上におろします。

(9) 記録ペンのゼロ位置をアンプ・ユニットのゼロ点調整器“POSITION”で設定します。

(10) 記録紙送りスイッチ“CHART DRIVE”を「ON」にして記録紙を送り出します。

(11) アンプ・ユニットのゼロ点チェック・スイッチを「MEAS.」側にします。

以上により記録（測定）準備は完了します。

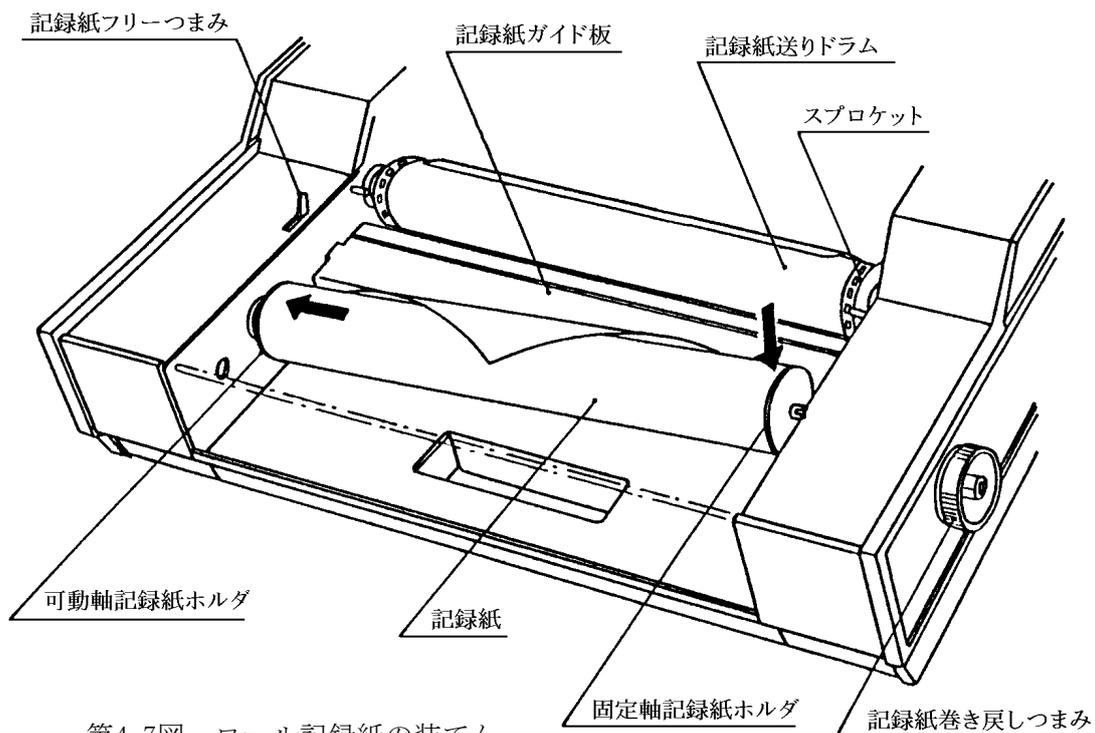
なお、高精度を要する測定においては、30分以上通電した後に測定を始めてください。

4. 3 記録紙の装てん

4.3.1 ロール記録紙 No.2516P50

- (1) 記録紙フリーつまみを“FREE”に設定します。
- (2) 記録紙台板を手前に開きます。
- (3) 記録紙右側の巻芯に固定軸の記録紙ホルダをはめ込み、他端に可動軸の記録紙ホルダをはめ込みます。
- (4) 可動軸の記録紙ホルダを左軸受けにはめ、記録紙を左に押しながら、固定軸記録紙ホルダを右軸受けにはめます。
- (5) 巻き戻しつまみ、あるいは記録紙を回して、右側記録紙ホルダ軸の凹部が巻き戻し軸の凸部に確実にハマり込んでいることを確認します。
- (6) 記録紙の先端を記録紙ガイド板にそわせて、記録紙送りドラムの奥に挿入します。
- (7) 記録紙の先端を記録紙送りドラム上方から少し引き出して、記録紙台板をしめます。(記録紙台板が確実にしまっていることを確認してください。)
- (8) 記録紙を台板と記録紙押さえローラの間を通して、記録紙押さえローラを記録紙上に倒します。
- (9) 記録紙両端のパーホレーションに、記録紙送りドラムのスプロケットがハマり込んでいることを確認します。
- (10) 記録紙フリーつまみを手前側に倒しておきます。

以上で記録紙の装てん作業は完了します。

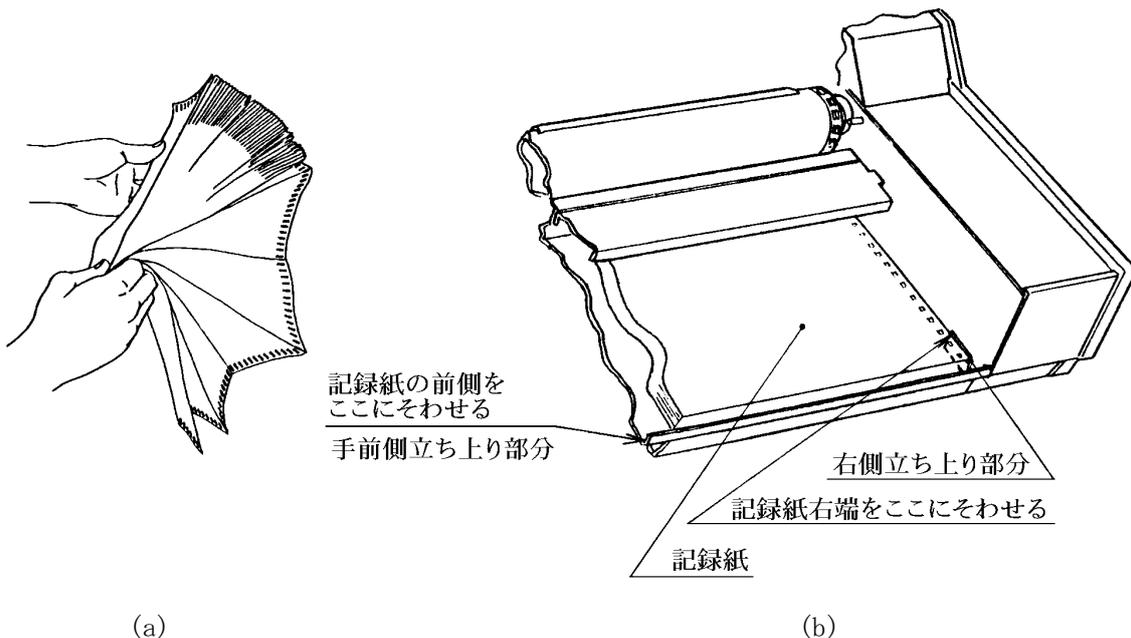


第4.7図 ロール記録紙の装てん

4.3.2 折りたたみ記録紙 No.2516Z150

- (1) 記録紙フリーつまみを“FREE”に設定します。
- (2) 記録紙台板を手前に開きます。
- (3) 新しい記録紙を装てんする際、記録紙の折り目が重なって繰り出されるのを防止するために記録紙をさばっておきます。(第4.8図(a)参照)
- (4) 記録紙のパーフォレーションの長孔を左側に、角孔を右側になるようにして記録紙収納部に置きます。
なお記録紙の右端および手前側をそれぞれ記録紙収納部の右側、手前側の立ち上がり部分にそわせて置いてください。
- (5) 記録紙の先端を記録紙ガイド板にそわせて、記録紙送りドラムの奥に挿入します。
- (6) 記録紙の先端を記録紙送りドラム上方から少し引き出して、記録紙台板を閉めます。(記録紙台板が確実にしまっていることを確認してください。)
- (7) 記録紙を台板と記録紙押さえローラの間を通して、記録紙押さえローラを記録紙上に倒します。
- (8) 記録紙両端のパーフォレーションに記録紙送りドラムのスプロケットがはまり込んでいることを確認します。
- (9) 記録紙フリーつまみを手前側に設定しておきます。

以上で記録紙の装てん作業は完了します。

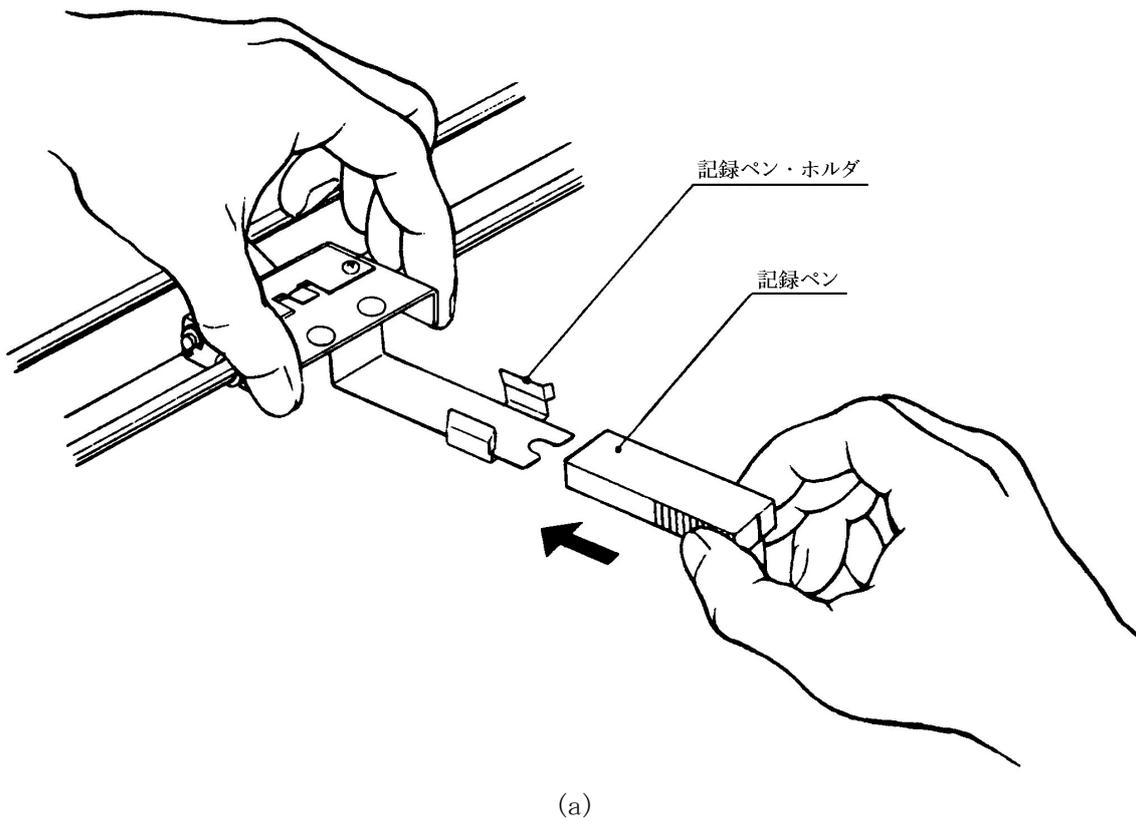


第4.8図 折りたたみ記録紙の装てん

4. 4 記録ペンの装着

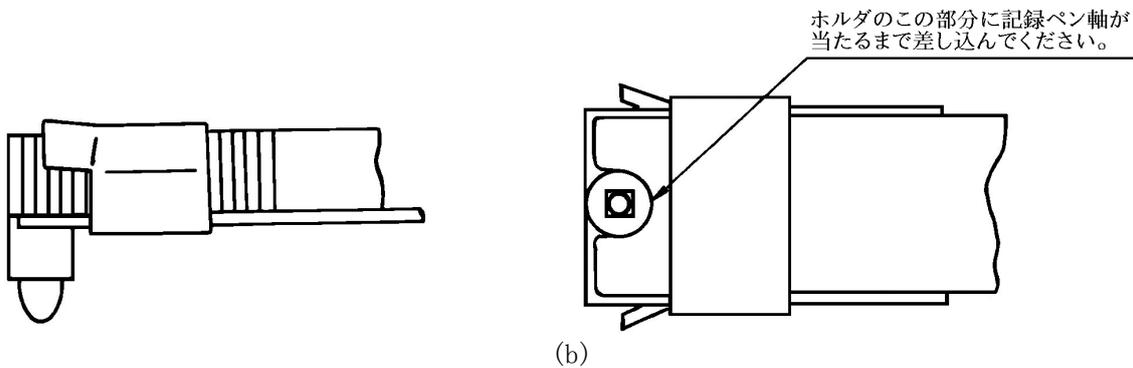
- (1) 天板を開けます。
- (2) 記録ペン・ホルダを支えて、記録ペンをホルダに差し込みます。(第4.9図(a)参照)
しっかりと装着していることを確認してください。(第4.9図(b)参照)

- ・記録時にはペン・キャップをペン・ボックスに入れて保管してください。
- ・使用されない場合、記録ペンには必ずペン・キャップをかぶせてください。



(側面より見た図)

(裏面より見た図)



第4.9図 記録ペンの装着

5. 使用上の注意事項

5. 1 記録ペン

記録ペンにはファイバ・チップを採用していますので、長時間使用しないで放置するとペン先でインキが乾燥し、記録できなくなる場合があります。

使用されないときは、必ず記録ペンに付属のキャップをかぶせてください。

5. 2 グランド端子

安定した測定結果を得るため、および感電防止のためにも必ず接地してください。

5. 3 環 境

温度範囲0～45℃、湿度範囲45～85%においてご使用ください。

また、できるだけ振動や塵埃の少ない環境でご使用ください。

5. 4 記録紙送り

記録紙送りのモータには、パルスモータを採用していますので、低速送りのときはステップ状の送りが感じられます。このステップ状の送りは、記録にはまったく支障のないピッチとなっていますので、安心してご使用ください。

5. 5 最大許容入力電圧

この記録計の入力回路には、ツェナ・ダイオードによる過大入力電圧の保護回路を設けていますが、第5.1表の許容入力電圧を超えると故障します。

できるだけ測定範囲内の入力電圧でご使用ください。

	測 定 範 囲	許容入力電圧範囲
マルチレンジ仕様	1 mV～50 mV	30 V以内
	100 mV～200 V	200 V以内

第5.1表 許容入力電圧

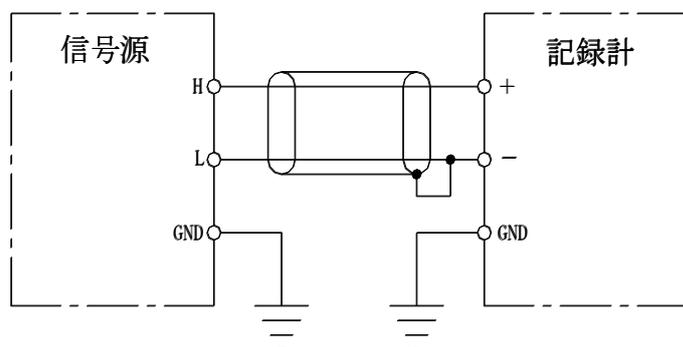
5. 6 コモン・モード電圧

入力端子“INPUT”と、シャシ(GND)間の耐電圧定格は、AC1000V1分間ですが、連続的に印加可能なコモン・モード電圧はAC400Vrms(50Hz/60Hz)DC500V以下です。

なお、本器のCOMMON MODE REJECTION RATIO(CMRR)を考慮すると、記録に0.1%以下の影響を与える範囲で印加できる電圧は、最高感度1mV/フルスパンのレンジにおいてAC30Vrms(50Hz/60Hz)、DC100V以下です。

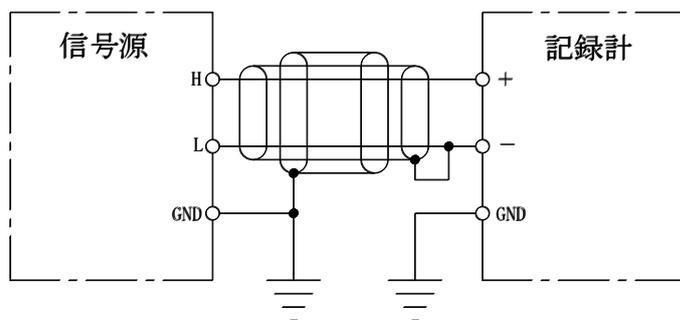
5. 7 入力信号線の接続

入力信号線にはシールド線を用いて、第5.1図のように接続してご使用ください。また、信号線が長くてノイズが問題になるような使用状態では、第5.2図のように入力信号線に2重シールド線を用いて、外側のシールドの一端を接地したご使用方法をおすすめします。



(注) 信号源の出力端子“H”，“L”はグラウンドに対し、低インピーダンス側を“L”、高インピーダンス側を“H”と表示しています。

第5.1図 信号線の接続 (通常の信号線接続方法)

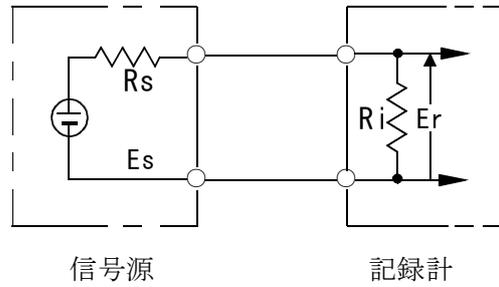


第5.2図 信号線の接続 (ノイズが問題になる場合の信号線接続方法)

5. 8 信号源抵抗の影響

測定すべき信号源の内部抵抗が大きすぎると、第5.3図のように信号電圧と測定値との間に誤差を生じたり、記録計のフィルタ回路の影響によってペンの動きが過制動状態のようになりますので、仕様以内のできるだけ低い信号源抵抗でご使用ください。

信号源抵抗が大きい場合は、記録された値に誤差を生じますのでご注意ください。



第5.3図 信号源抵抗の影響

$$E_r = \frac{R_i}{R_s + R_i} \times E_s$$

$$R_s \ll R_i \text{ の場合 } \quad E_r = E_s$$

E_s : 信号電圧

R_s : 信号源内部抵抗

R_i : 記録計入力抵抗

E_r : 記録される電圧

6. 保 守

6. 1 フルスパン電圧調整器“CAL.”の較正

フルスパン電圧は工場出荷時、高精度に較正していますので、通常は手を触れる必要はありません。

ただし、次に記載するような部品を交換した場合には、較正する必要があります。

- (1) ポテンショメータ、またはサーボ・ユニットを交換した場合
- (2) アンプ・ユニット、またはアンプ・ユニット内の部品を交換した場合

6.1.1 較正方法

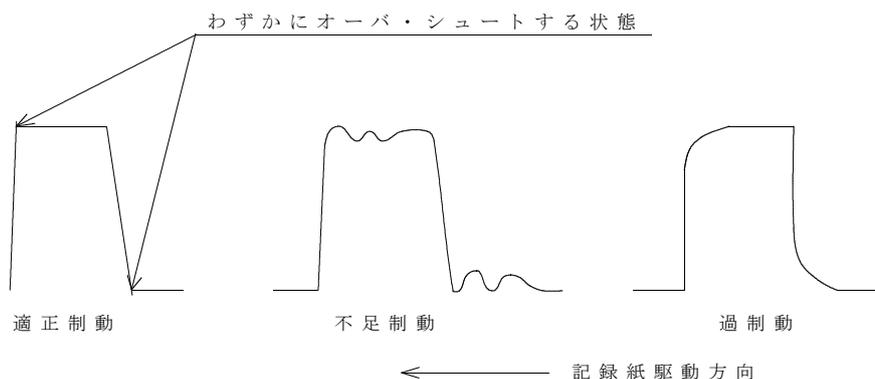
本記録計には較正電源を内蔵していますので、下記順序に従ってフルスパン電圧の較正を行ってください。

- (1) 測定範囲切り換えスイッチ“RANGE”を最高感度レンジに設定します。
- (2) ゼロ点チェック・スイッチ“MEAS.-CHK-CAL.”を「CHK」状態にして、ゼロ点調整器“POSITION”で記録ペンを記録紙の0%位置に設定します。
- (3) ゼロ点チェック・スイッチ“MEAS.-CHK-CAL.”を「CAL.」にしたとき内蔵の較正電源により記録ペンが記録紙の100%方向に振れるため、フルスパン電圧調整器“CAL.”により記録ペンを100%位置に較正してください。
記録紙は湿度により伸び縮みするため、工場出荷時は鋼尺を使用し、250mm振幅で較正しています。

6. 2 制動調整器“DAMP.”の調整

制動調整器は第6.1図の適正制動に調整するのが最も応答性がよく、入力信号に忠実な記録が可能となります。

通常は調整を必要としませんが、制動状態の点検・調整時には方形波入力信号を記録させて第6.1図の適正制動状態に制動調整器“DAMP.”を調整します。



第6.1図 方形波入力信号記録時の制動状態

6. 3 マーカ振幅調整器“MARKK.”の調整

マーカ振幅調整器は記録ペンに重畳させるマーカの調整器であり、約0～+7%/フルスケールの範囲で調整が可能です。

マーカ振幅は+3.5±1%/フルスケールに工場調整されていますので、通常は手を触れる必要はありません。

なお、記録波形の状態によって不適當な場合には、振幅調整をしてご使用ください。

6. 4 注 油

記録計を常に正常な運転状態に保つためには定期的な注油が必要です。

注油は2～3ヶ月に1回程度行い、注油箇所には※ミシン・オイルを1～2滴ずつ注油してください。

注油箇所は可動部全域にわたりますが、注油箇所にゴミなどが付着している場合には必ずゴミをぬぐってから注油してください。

※ミシン・オイル：スピンドル油1号，または2号

注油箇所を次に示します。

(1) 記録ペンのレール部分

ゴミをぬぐったあと少量の油をぬってください。

(2) 記録紙押さえローラの軸受部分。

(3) 記録紙送り機構の回転軸部分。

(4) その他の可動部全般。

注：電気部品には注油しないでください。

なお、注油のほかにペンガイド・レールなどの可動部分は定期的に清掃することが必要です。

記載内容の一部を無断で変更する場合がありますのでご了承ください。